

お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの
販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご郵居やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。
名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

[illegible]

本社・工場	三島市東新原7-7	〒955	TEL(0256)32-2111(大代表)
柏崎工場	柏崎市宝町2-58	〒945	TEL(0257)23-5175(代表)
豊岡工場	豊岡市下条町鷹ノ浦1059	〒940-11	TEL(0258)22-2121(代表)

株式会社 **エフエフエフ**

G H I J

103WA0065- 0 1 2 3 dso 7

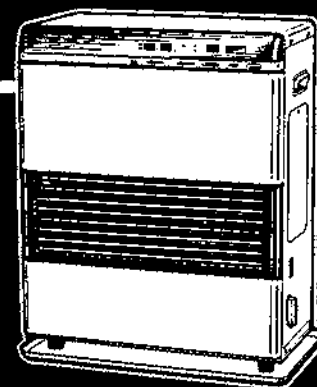
CORONA

コロナ密閉式石油ストーブ

取扱説明書

正しく使って上手に節約

FF-404S



もくじ

	ページ
1.特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください…	1～4
2.使用する場所…	4
3.各部の名称…	5～6
4.使用前の準備…	7～9
5.使用方法…	10～16
6.安全装置…	16
7.その他の装置…	17
8.日常の点検・手入れ…	17～21
9.定期点検…	22
10.故障・異常の見分け方と処置方法…	22～23
11.部品交換のしかた…	24
12.保管(長期間使用しない場合)…	24～25
13.仕様…	26～27
14.アフターサービス…	28
15.据付け…	28～30



KEROSENE ONLY

ガolin使用禁止
使用燃料：灯油

株式会社 **エー・ピー・エス**

タイマーの使用法

■おはようタイマーの解除

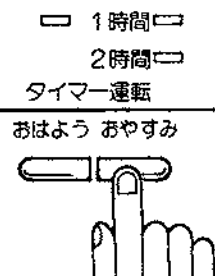
- おはようタイマーボタンを押します。おはようタイマーランプが消灯し、時刻表示部に現在時刻が表示され（時計動作コロンが点滅）、タイマー運転が解除されます。
- このままであれば自動的に燃焼を開始します。停止する場合は、運転スイッチを押しもどしてください。

外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは絶対にしないでください。

○おやすみタイマー

■おやすみタイマー運転

- おやすみタイマーボタンを押してください。
設定時間のおやすみタイマーランプが点灯し、設定時間経過後自動消火します。
- 1回押す——1時間運転後自動消火
- 2回押す——2時間運転後自動消火
（このとき、運転スイッチは、運転状態のままにしておいてください）



■おやすみタイマー運転の解除

- おやすみタイマーボタンを押して、おやすみタイマーランプを消灯させてください。
- この状態で、おはようタイマー運転されていない場合は燃焼が継続しますので、消火するときは運転スイッチを押しもどしてください。

○おはようタイマーと、おやすみタイマーの同時運転

1. おやすみタイマーをセットしてください。
2. おはようタイマーをセットしてください。

- 必ず、おやすみタイマーのセットを先に行ってください。
おはようタイマーのセットを先に行いますと、一旦、消火して燃焼部が冷えてからでないと、再点火できません。

使用上の注意

△注意 給排気筒は高温です。やけどに注意してください。

- ストーブや給排気筒にはみだりに床暖房用の熱交換器などを取付けしないでください。
ストーブや給排気筒に不適当な熱交換器などを取付けると排ガスの水分が結露しやすくなり、結露水が凍結して給排気筒を塞ぎ、不完全燃焼や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

また、ストーブの寿命を短くする原因にもなります。

6. 安全装置

安全装置が作動して消火した場合は、ストーブと周囲の点検・処置を行ってください。

処置後の点火操作は点火の項に従ってください。

対震自動消火装置

地震や強い衝撃を受けたときは対震自動消火装置が作動して自動的に消火します。
（E3表示）

対震自動消火装置は自動的に再セットされます。点検後、点火操作をしてください。

点火安全装置

- 異常燃焼を防止するため、点火ヒータおよび燃焼用送風機に通電される前に、燃料が流出することのない構造になっています。

停電安全装置

停電や電源プラグのさしこみが抜けたときは、すべての運転を停止します。
（ただし、5秒以内の停電の場合は、燃焼を継続します）

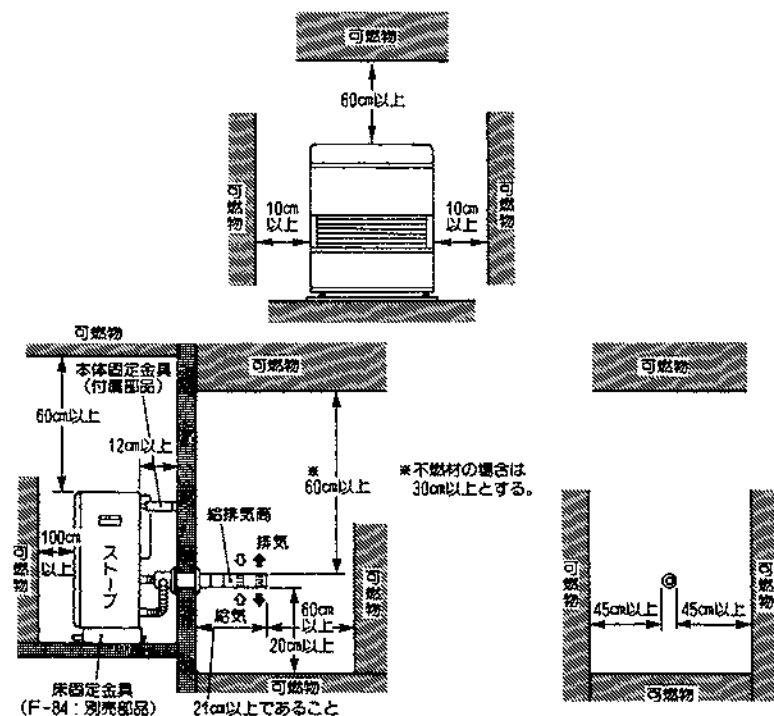
停電復帰（再通電）後デジタル表示部に「E7」が表示され、ストーブは運転しません。
再度点火操作をしてください。

過熱防止装置（安全サーモスタット）

△警告 対流ファンガードや温風吹出口がふさがれたり、ストーブ前面に障害物があるなどして本体内部が過熱すると過熱防止装置が作動します。（表示部全消灯）

原因を取除き、本体内部が十分冷えてから点火操作をしてください。

標準据付け例



据付け工事後の確認

1. ストープが壁または床に、固定金具で固定されていることを確認してください。
2. 丈夫な床面に据付けられていることを確認してください。
3. ストープ及び給排気筒と周囲の材料との距離は火災予防条例で規制されています。「標準据付け例」を参考にし、確認してください。
4. 給排気筒の貫通部及び、寸法は工事説明書の「給排気筒の取付け」を参照して確認してください。
5. 延長設置の場合は、延長3m以下、曲り3ヶ所以下で行ってください。
6. 油タンクはストープより、2m以上離れているか確認してください。

●ストープに付属している送油ホース又は指定の送油ホース以外は、使用しないでください。

●送油ホースを屋外では使用しないでください。

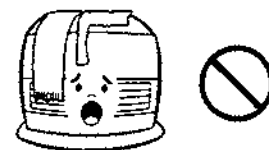
7. 適切な位置に電源コンセントが設けられているか、また電源コードが給排気筒に触れていないか確認してください。

⚠ 警告

●温風吹出口をふさがないで

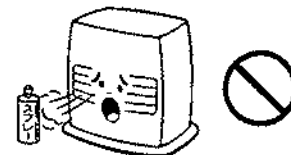
衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。

衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。



●スプレー缶厳禁

スプレー缶を温風にあたる場所に放置しないでください。熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



●可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの（ベンジン、シンナー、ガソリン）、スプレーを使用しないでください。

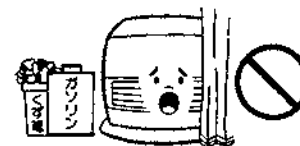
火災や故障の原因になります。

⚠ 注意

●カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。

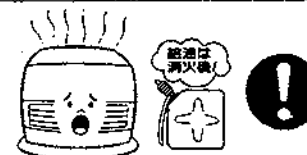
火災が発生するおそれがあります。



●給油時消火

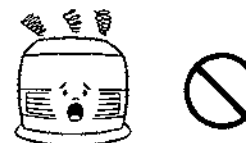
給油は、必ず消火してから行ってください。

火災のおそれがあります。



●異常時使用禁止

万一異常を感じたときは、使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。



●温風に注意

温風に直接長時間あたらないでください。

低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

消火後再点火するときの注意

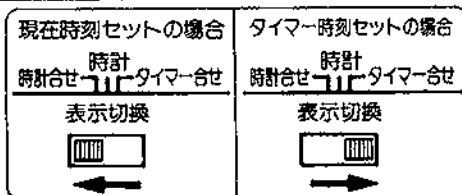
- 燃焼中に誤って次のような操作をすると、再点火安全装置の働きで、ストーブが冷却されるまで点火できませんので注意してください。
 - 電源プラグを抜いた。
 - 運転スイッチを押しもどした。
 - おはようタイマーボタンを押し、タイマー動作をした。
- ただし、瞬間的な消火操作もしくは停電（いずれも、約5秒以内）の場合は、そのまま燃焼します。

タイマーの使用法

現在時刻合せ・タイマー時刻合せ

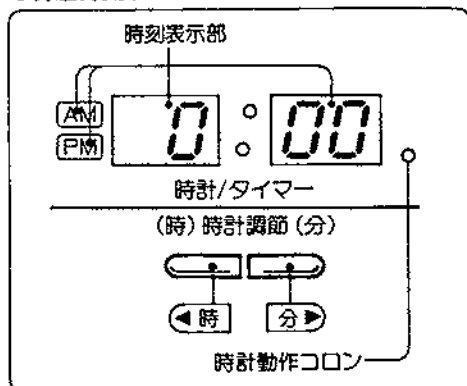
1. 時計調節の切換スイッチを（時計合せ）または（タイマー合せ）にします。

- セットする前は、デジタル表示部は（AM）0:00の点灯を表示します。



2. 時計調節ボタンの（時）（分）を押して現在時刻またはタイマー点火時刻をセットしてください。

- （時）ボタンで時刻表示部を合せたときはAM・PMを確認してください。
- （分）ボタンで時刻表示部を合せたとき、現在時刻セットの場合は、1分ごとに、タイマー時刻セットの場合は、5分ごとに動きます。
- （時）（分）ボタンを押しつづけると、表示は連続してかわります。



- 12時設定の場合は、0ではなく、12に合せてください。

(例) AM ~~0~~:13。 AM 12:13。

3. 切換スイッチを（時計）の位置に合せてください。
時計動作コロンが点滅に変わり時計動作を開始します。

給排気筒及びトップの周囲の点検

- 給排気筒及び排気管の接続部がはずれたり、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線していないか点検してください。
- 給排気筒を一度取りはずして、再び取付けるときは、排気管の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。破損していた場合は、お買い求めの販売店に交換を依頼してください。



△注意 給排気筒及びトップの周囲に障害物が置いてないか、ときどき点検してください。

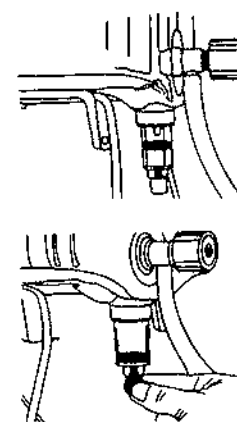
- 給排気筒がつまりますと、不完全燃焼をおこします。
シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり、異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。

油タンクの水抜き

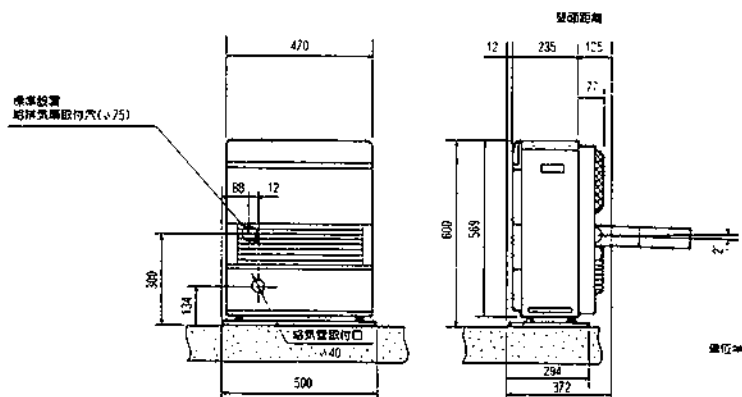
別売TC-40K形油タンクの場合

油タンク内には、水やごみがたまりやすく、多くなるとストーブの方へ流出して、灯油の流れを妨げて十分な火力が出なくなります。
ときどき水ゲージを点検して、次のように水を抜いてください。

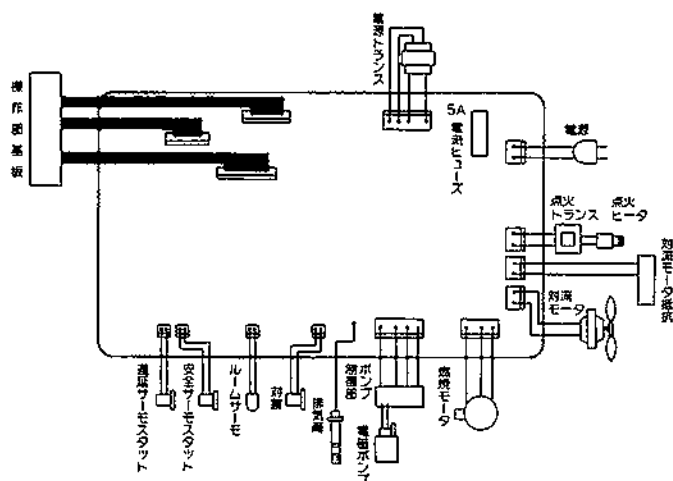
1. 水がたまると灯油と水との境界面に赤色の浮子が浮きあがります。浮子が上まで浮きあがらないうちに、油タンク内の水を抜いてください。
2. 水抜きバルブの下に容器を置いて、水抜きバルブを少しゆるめると油タンク内の水が出て、浮子が沈みます。
水を抜いたら水抜きバルブを固く締めてください。
油漏れがないか必ず確認してください。



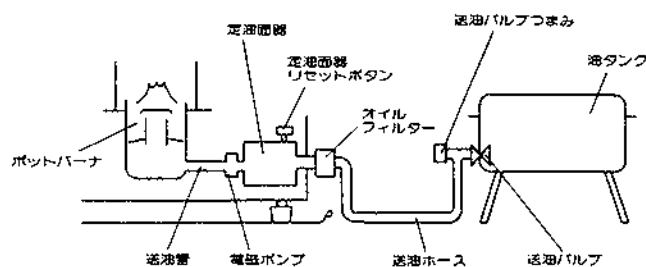
配線図



配線図



送油経路図



●据付け上の注意

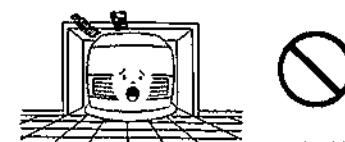
- 据付けは、お買い上げの販売店に依頼してください。
- ストープおよび給排気筒の据付けについては、火災予防条例、石油燃焼機器の設置基準による規制がありますので、これに従って据付けてください。
- ストープの固定は、本体固定金具などで、確実に固定してください。



2. 使用する場所

安全に使用するために

- マントルピースなどには据付けないでください。

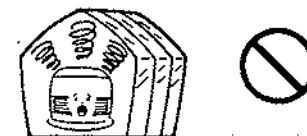


- 高地では使用しないでください。

高地で使用する場合は販売店にご相談ください。
(空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。)

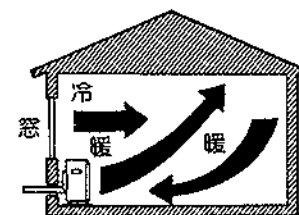


- 温室、飼育室、乾燥室などでは絶対に使用しないでください。



効果的に使用するために

- 外気に接する窓の下や壁面に置くと、冷気がストーブで暖められ温風として対流しますので効果的です。
- ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ストーブ本体の温度が上昇して危険ですので、使用場所には十分注意して効果的に使用してください。



出入口など人の通るところは、ぶつかると危険ですので避けてください。

点 火

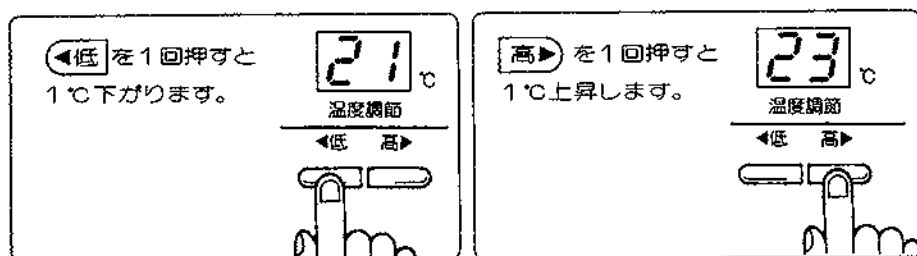
- デジタル表示部におはようタイマーセット時刻が表示（時計動作コロンが消灯）されているようであれば、運転スイッチを押すとタイマー運転になりますので、おはようタイマーボタンを押してタイマー運転を解除してください。
- 着火後約10分ほどは、熱膨張のため、熱交換器などが小さな音を出すことがあります。異常ではありません。
- 初めてご使用になるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。
- 初めてご使用になるときは、送油経路内の空気だまり（エアロック）により炎が立消えになることがあります。一旦消火して、冷えるのを待ってからもう一回点火してください。
- 燃焼中に運転スイッチを押してもどして「消火」にしたり、電源プラグを抜いたり、おはようタイマーボタンを押すなどして約5秒以上通電を止めると自動消火し、燃焼室が冷却してからでないと再点火できません。
- 外気温が低くなると、給排気筒の先端から連続的に白煙が出ることがあります。これは排ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためで、異常燃焼による白煙ではありません。

室温の調節

ストーブ運転中は、ルームサーモにより温度調節のセット温度に応じて自動的に火力切替を行います。

■温度調節ボタン（◀低▶高▶）を押し、デジタル表示部のセット温度を希望の温度に合せてください。

●停電があった場合でも1分間以内の停電であれば、再セットする必要はありません。



■未セットの場合、セット温度は自動的に22°Cにセットされます。

■セット温度は、16°Cから30°Cまでの範囲がセットできます。

点火ヒータの点検

点火ヒータや点火しんにススが付着しますと、赤熱が低下したり、油の吸上げが悪くなったりして点火しにくくなり、着火不良の原因になります。

- 点火ヒータの脱着は入念に行う必要がありますので（燃焼用空気の気密性保持のため）、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

ポットバーナの点検

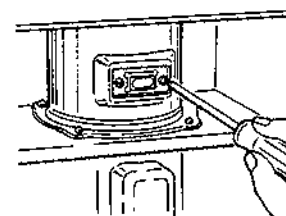
- バーナ内部や燃焼リングの点検は高度な技術を必要としますので、お買い求めの販売店に依頼してください。

のぞき窓の透明度が悪くなった時

のぞき窓をはずしてふく場合は、次のようにしてください。

前パネルをはずし、のぞき窓をとめているねじをはずして、少し水を含ませた布でふいてください。

- ねじ部は常温になってからはずしてください。
- もとどおり、均一にねじを締めて固定してください。

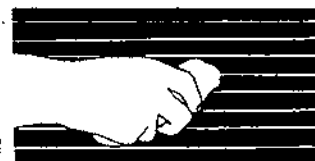


温風吹出口の掃除

温風吹出口や本体の上面などには、ほこりが付着して白くなります。

湿った布で汚れをおとしてから、やわらかい布でからぶきしてください。

- 温風吹出口羽根を曲げたり、変形させたりしないよう注意してください。



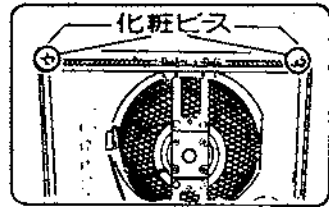
熱交換器の点検

熱交換器の内部にススが異常にたまりますと、不完全燃焼の原因になります。

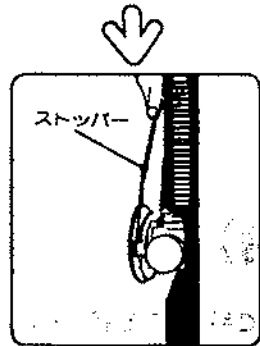
- 異常燃焼が起こった場合には、バーナの点検とあわせて熱交換器の点検を、お買い求めの販売店に依頼してください。

収納方法

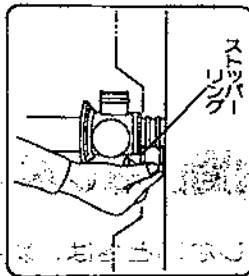
ストーブを取りはずして収納したい時は、次のように行ってください。



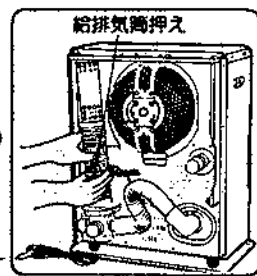
1. 背面カバー(上)を固定している化粧ビスを取ってはずしてください。



2. ストッパーを抜いてください。



3. ストーブを引寄せ、給排気筒を固定しているストッパーリングをはずしてください。

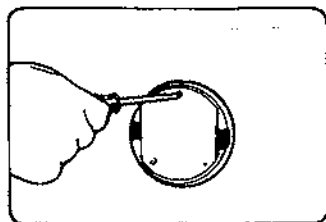


4. 給排気筒を給排気筒押えで背面に固定してください。
(抜け検知用リード線はそのまま)

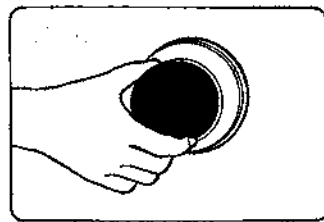
取りはずしたストーブは、ポリ袋をかぶせ、ダンボール箱に入れて保管してください。

- ストーブを収納された後の壁の穴は、次のようにしてください。

壁に取付けたスリーブは、そのままにして、穴は次の要領でふさいでください。



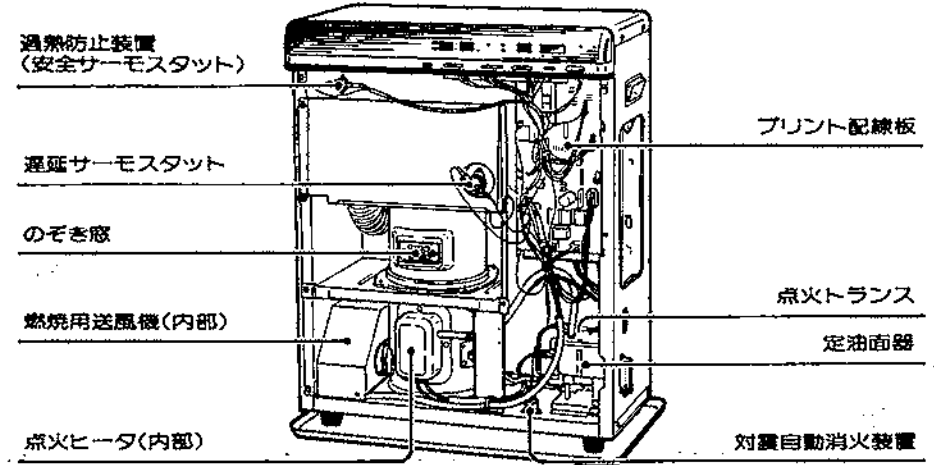
室内側は、室内用スリーブふたでふさいでください。



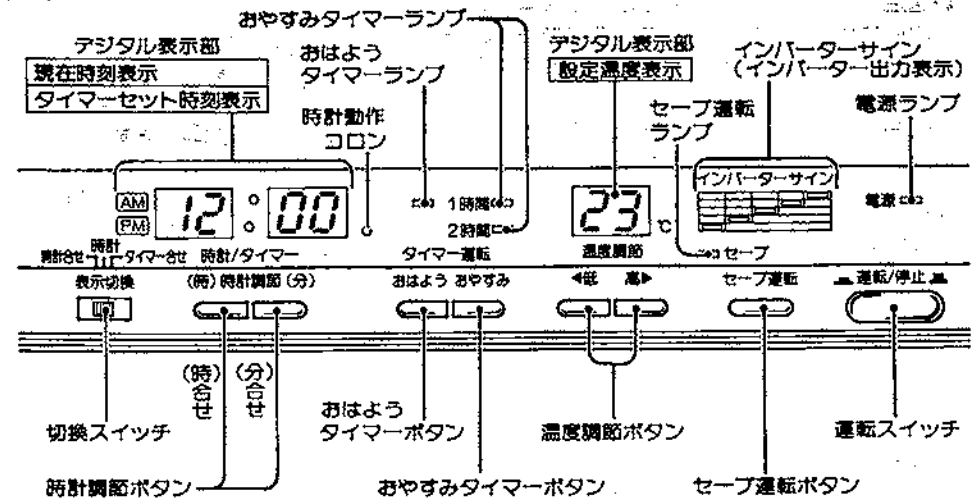
室外側は、室外用スリーブふたでふさいでください。

給排気筒、排気管の中についている接続部漏れ止め用Oリングを調べて、いたんでいたら新しいOリングをお求めの上、交換してください。

構造図



操作部・表示部

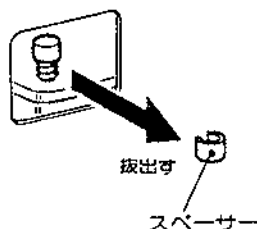


点火前の準備と確認

- ストーブの据付時や長時間放置した後は、このリセットボタンの下側にあるスパーサを拔出してからリセットボタンをいちばん下まで1～2度押してください。

灯油流入口のゴム弁の固着がはずれて灯油がスムーズに流れます。
長時間押し続けると定油面器より油があふれますので注意してください。

- スパーサは必ずもとどおりに取付けてください。



送油経路の点検

- 油タンクや送油管の接合部などから油漏れがないかどうか確認してください。

電源の接続

△注意 電源プラグは、必ずプラグを持って抜き差しを行い、確実にコンセントに差込んでください。

- 電源は、必ず適正配線された单相100Vのコンセントを使用してください。

- だこ配線は危険ですので、絶対にしないでください。**
- 電源コードは、足に引っかかったり、家具などにはさまれないように注意してください。

ストーブ周囲の確認

△注意 ストーブの上や周囲に燃えやすいものを置かないでください。

給排気筒接続部の確認

△警告 給排気筒が正しく接続されているか確認してください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れ大変危険です。

9. 定期点検

定期点検のおすすめ

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。

2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、お買い上げ店又は修理資格者（（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL 03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など）のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

10. 故障・異常の見分け方と処置方法

次のような現象は故障ではありません。

修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

現 象		説 明
点 火 時 ・ 消 火 時	初めて使用するとき、煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりなどが焼けるためです。しばらく窓をあけて換気してください。
	初めて使用するときや、シーズン初めの初使用時に、点火しない。点火しても2～3分で消火してしまう。	●定油面器リセットボタンをセットしてください。（8～9ページ参照） ●送油経路内の空気抜きをしてください。（8ページ参照）
	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火してもすぐ温風が出ない。	不快な冷風を出さないためであり本体内部が暖まると温風が自動的に吹出てきます。
燃 焼 時	消火しても温風が出ている。	本体内部が冷却するまで送風を継続します。
	炎の中にとときどき赤火が混る。	異常ではありません。
そ の 他	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるため、異常燃焼による白煙ではありません。

万一、具合の悪いときは下記の早見表にもとづいて点検し、処置にこまるようなときや、原因のはっきりしないときは、お買い求めの販売店に連絡してください。

— 早見表 —

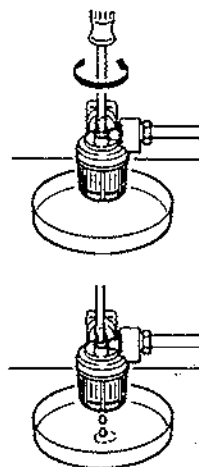
現象 原因	点火ヒータの断線	点火ヒータと点火しんとの関係位置が悪い	油タンクに灯油がない	燃焼ノングが正しくセットされていない	定油面器に水、ごみの目づまり	送油ホースに空気だまりがある	ストーブが傾斜している	排気管の配管が長い、曲り箇所が多い	ストーブに衝撃を与えた	灯油に水が混入している	排気管の接続部にスキマがある	給排気管の先端がおおわれている	連絡パイプの袋ナットが締まっていない	電源コードの断線	過熱防止装置の作動(安全サーモスタット)	排気管抜け検知装置の作動	エラー表示	処置方法
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E2	販売店に修理を依頼する
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E2	販売店に修理を依頼する
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E2	給油する
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	販売店に修理を依頼する
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E2	ストレーナをはずして掃除する。油タンクの水を抜く。
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E1	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E2	送油ホースを振る。山形になっている所は平に直す。
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E1	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	ストーブを水平に調節する
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	延長3m、曲り3箇所以下にする。
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E3	電圧スイッチを押し再点火する
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	灯油をとりかえ、定油面器の掃除をする
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E1	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	排気管の接続箇所を正しく取付ける
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	おおっているものを取除く
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	締直す(販売店に修理を依頼する)
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—	販売店に修理を依頼する
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	表示部 全消灯	原因を取除いた後、再運転する
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	E5	排気管の接続部及び排気管抜け検知用リード線の接続部のはずれがないか点検しはずれいたら、正しく接続する。

給油

燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。
油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。

1. 油タンクに給油します。
2. ストープ背面のオイルフィルターに付いている空気抜き用のねじを、ドライバーを使ってゆるめてください。
3. 空気が抜けてオイルフィルターの中に灯油が満たされたら、空気抜き用のねじを締めてください。(灯油が床にこぼれないように布、容器などを用意してください)



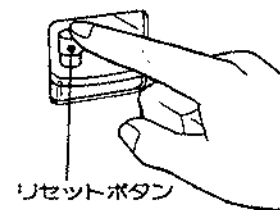
●油タンクを空にしないよう注意し、早急には給油してください。
●初めに1分ほど給油し、その後3分ほど送油ホースの油が流れてきたら、再運転してください。

点火前の準備と確認

定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、ストーブ右側面の角穴の中に指を入れ、定油面器リセットボタン(赤色)を軽く押下げてください。

- リセットボタンは据付時や、シーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。万一点火操作後4～5分しても着火しなかったり、着火後2～3分で消火してしまう場合は、リセットボタンを押してください。(安全弁がはずれ、灯油ガススムーズに流れます)



4. 使用前の準備

燃 料

灯油（JIS 1 号灯油）を必ず使用してください。

△警告 ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。

△注意 変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などは絶対に使用しないでください。

△注意 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。

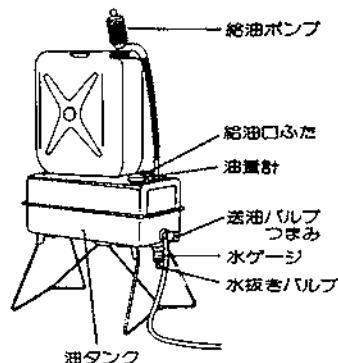


給 油

給油の際の手順と注意

△注意 給油は必ず消火してから行ってください。
火災のおそれがあります。

- 送油バルブを閉じて給油口ふたをはずし市販の給油ポンプで灯油を給油してください。油量表の針が「満」をさしたら給油をやめてください。
給油が終了しましたら、給油口にあるろ網を取出して水やごみを捨ててください。
- ろ網を取付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。



- 給油の際に、水・ごみなどを入れないように特に注意してください。
- 水・ごみなどは燃焼不良や、ストーブの寿命低下などの原因になります。
- 給油口ふたは、確実に締めてください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

11. 部品交換のしかた

△注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買い求めの販売店又は修理資格者（（財）日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など）のいる販売店にご相談ください。

部品交換は **コロナ純正部品** とご指定ください。

部品ご入用の際には、コロナ製品取扱販売店で必ずコロナ純正部品をご指定ください。純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、器具を損傷したり思わぬ事故の原因となります。

12. 保管(長期間使用しない場合)

シーズンオフや長期間使用しないときは、次の要領で手入れを行い保管してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜いてください。
2. 背面カバー(上)、対流用送風機をはずし、羽根とガードのほこりを掃除機などで取除いてください。(21ページ参照)
3. 前パネルをはずして、掃除機などで内部のほこりを取除いてください。
4. 油タンクの灯油は全て抜取ってください。中に水分やごみが残ったままにしておきますと油タンクが腐食する原因になります。
5. オイルフィルターと定油面器内の灯油を抜取ってください。(19ページ参照)
6. 塗装部分は、湿った布で汚れを落してから、からぶきしてください。

- 取扱説明書は大切に保管してください。
- ストーブを、据付けたままで保管されるときは、温風吹出口や背面の対流用送風機に、ほこりがたまらないよう適当なカバーをかけてください。
- ストーブを取りはずして保管されるときは、ポリエチレンの袋に入れ、乾燥した場所に横倒しにしないようにしておしまいください。

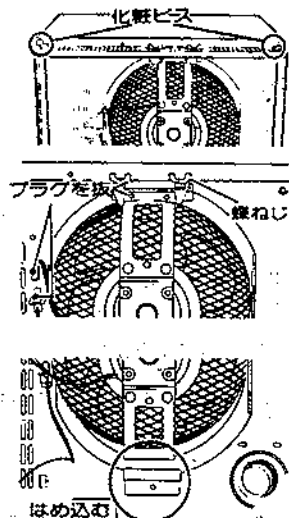
対流用送風機の掃除

対流用送風機のガードにほこりがたまると、音が大きくなって温風量が少なくなり、暖房出力が低下すると同時に、ストーブ内の温度が異常に高くなって、過熱防止装置(安全サーモスタット)が作動する場合があります。

1週間に1度は、次の手順に従って対流用送風機を取りはずして掃除をしてください。

対流用送風機のはずしかた

1. 背面カバー(上)を固定している化粧ビスをとってはずしてください。
2. 対流用送風機のリード線プラグを抜いてください。
3. 蝶ねじをはずしてから、対流用送風機を後に傾けながら上方へ引出してください。
4. 掃除機などでモーター、羽根、ガードについたほこりを取除いてください。
羽根を曲げたり、変形させないように注意してください。



対流用送風機の組付けかた

- 対流用送風機をはずした時と逆の順序で、もとどおりに取付けてください。
- この時、対流用送風機の下側のゴムの部分をプラスチックの溝にはめ込んでください。

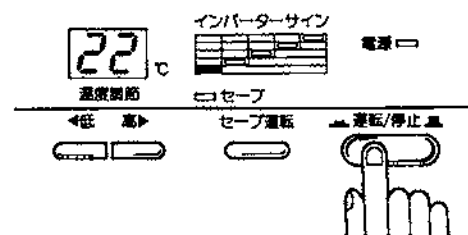
● 対流用送風機は、点灯し、自動的に掃除を行ってください。

5. 使用方法

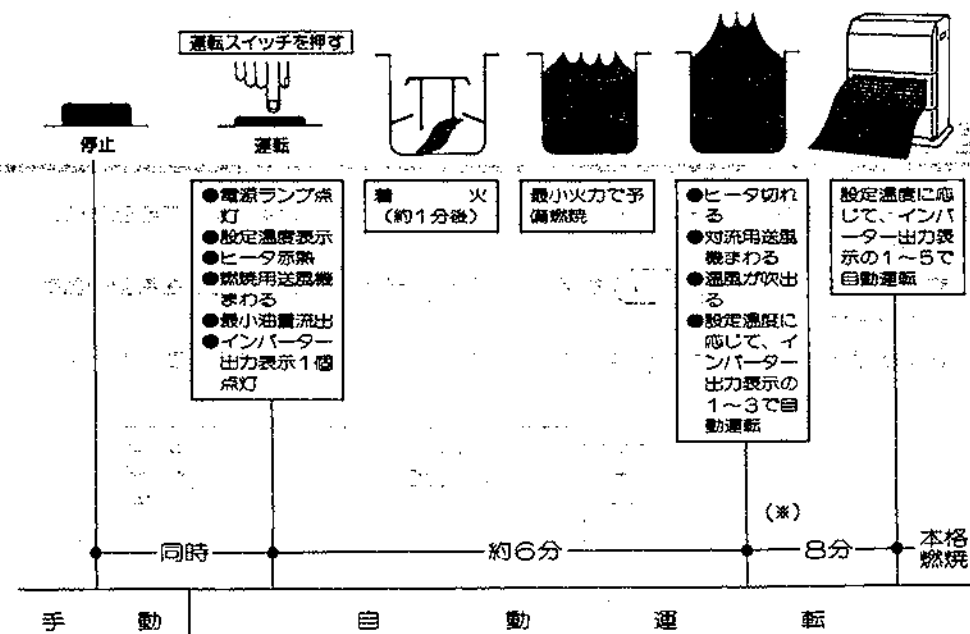
点 火

- 一旦、運転操作をすると、消火操作をしても対流用送風機がまわるまで運転状態を継続することがあります。これは燃焼室内の未燃ガスを完全に燃焼させる為です。

1. 運転スイッチを押してください。
電源ランプの点灯と同時に、設定温度が表示され、インバーター出力表示が1個点灯します。



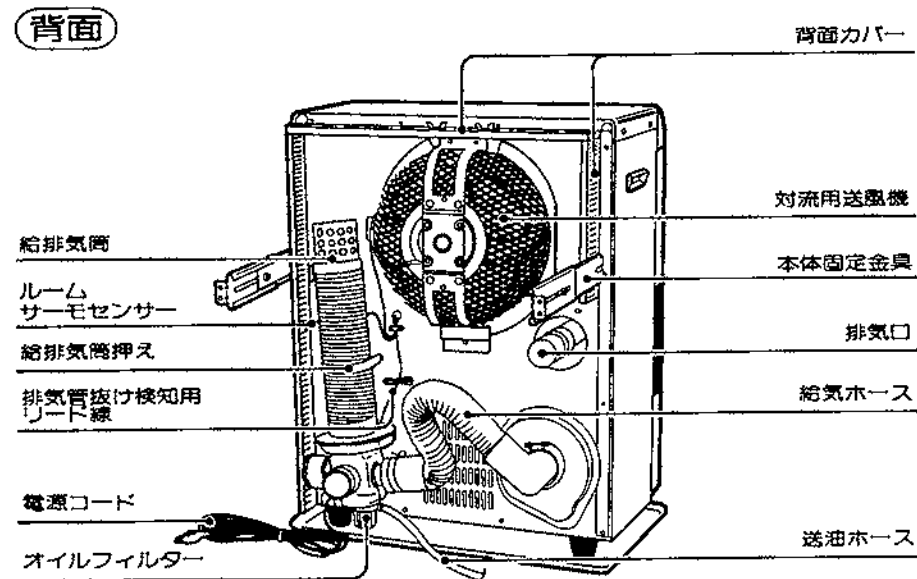
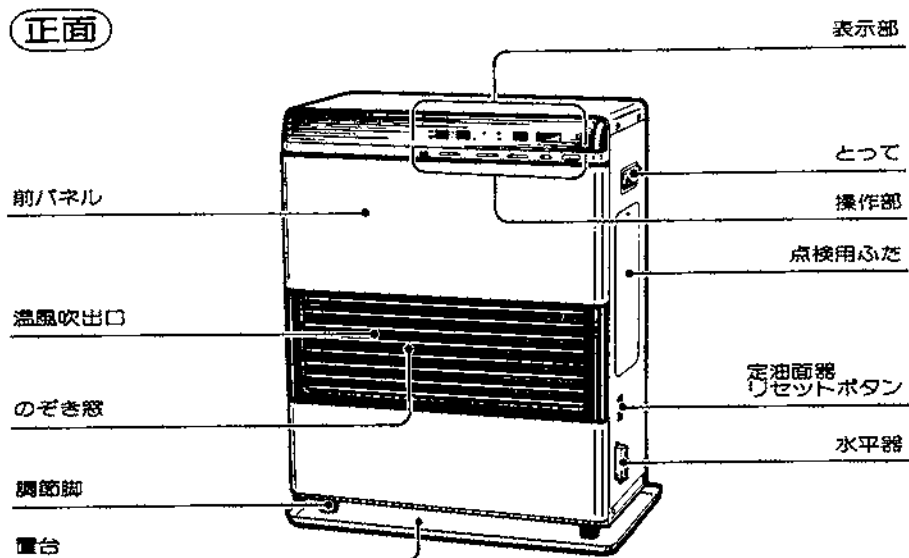
2. 自動的に次のように運転します。



セーブ運転を行った場合には、設定温度により、(*)の時点で消火動作になることがあります。

3. 各部の名称

外観図



13. 仕様

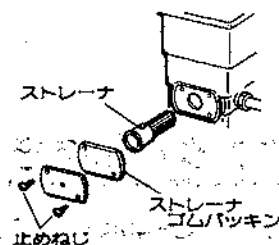
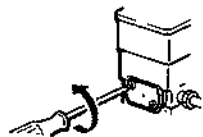
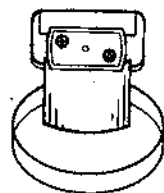
仕 様

形 式 の 呼 び		FF-404S	
種 類		ボット式・強制給排気形・強制対流形	
点 火 方 式		電気点火式	
使 用 燃 料		灯油 (JIS 1号灯油)	
燃 料 消 費 量	最 大	0.48L/h	
	最 小	0.20L/h	
発熱量(入力)	最 大	16,560kJ/h (3,960kcal/h)	
	最 小	6,900kJ/h (1,650kcal/h)	
熱 効 率	最 大	94.5%	
	最 小	91%	
暖 房 出 力	最 大	4.36kW, 15,640kJ/h (3,750kcal/h)	
	最 小	1.74kW, 6,280kJ/h (1,500kcal/h)	
標 準 適 室	温暖地	木造 18㎡(11畳)まで	コンクリート 25㎡(15畳)まで
	寒冷地	木造 20㎡(12畳)まで	コンクリート 30㎡(18畳)まで
外 形 寸 法		高さ600mm 幅500mm 奥行324mm (置台を含む)	
質 量		20kg	
電 源 電 圧 及 び 周 波 数		100V 50/60Hz	
定 格 消 費 電 力 50/60Hz		最大 110/110W(点火初期に短時間発生) 点火時 96/92W・燃焼時 55/50W	
給 排 気 筒 呼 び 径		D40	
給排気筒設置通部孔径		75mm	
排 気 温 度		230℃	
電 流 ヒ ュ ー ス		5A	
安 全 装 置		対震自動消火装置・点火安全装置・停電安全装置・過熱防止装置(安全サーモスタート)	
そ の 他 の 装 置		排気管抜け検知装置・再点火安全装置	
付 属 品		給排気筒セット 1・型紙 1・本体固定金具 2・置台 1 送油ホース 1・60Hz風量制御板 1	

定油面器ストレーナの掃除

定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
水やごみがたまると、灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなります。
シーズンの終わりには、次のように掃除してください。

1. 油タンクの送油バルブを開けてください。
2. ストープ右側面にあるストレーナの掃除口に荷札などの厚紙を差込んで、油ガイドを作り、その下に容器を置いてください。
3. ストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。
定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。
4. ストレーナを取出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。(水で洗わないでください)



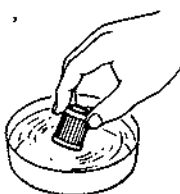
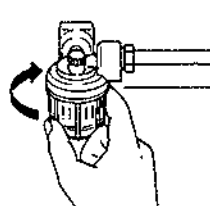
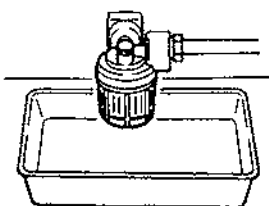
組立てるときは、

- ストレーナを差込むときに、油ガイドを壊さないように注意してください。
- ストレーナを差込むときに、油ガイドを壊さないように注意してください。
- ストレーナの止めねじを、強く締めすぎないでください。
- 油が漏れないように確認してください。

オイルフィルターの掃除

オイルフィルターにごみや水がたまった場合は、次のように掃除を行ってください。

1. 油タンクの送油バルブを締めて、オイルフィルターの下にできるだけ大きな容器を用意してください。
2. オイルフィルターのプラスチックのカップを手でゆっくりと左にまわしてはずし、カップにたまったごみや水を除去してください。
3. フィルターを真下に引いてはずし、きれいな灯油ですすぎ洗ってください。
(水で洗わないでください)



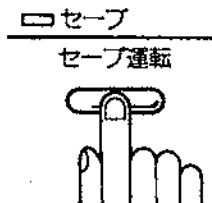
室温の調節

セーブ運転

最小火力でも室温が上昇する場合(気温の高いとき、日あたりの良い部屋)は、セーブ運転をお選びください。

■セーブ運転ボタンを押してください。

セーブ運転ランプが点灯し、室温がセット温度より約3℃上昇すると、自動的に消火(セーブ消火)し、セット温度まで下がると自動的に再点火して、室温を調節します。



セーブ運転を解除する場合は、もう1度セーブ運転ボタンを押してください。
セーブ運転ランプが消灯して通常運転に戻ります。

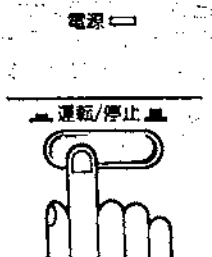
炎の状態

●炎の状態は青い炎の中に、いくらかの黄色い炎(赤火)がまじっても異常ではありません。

消火

■運転スイッチを押しもどしてください。

1. 電源ランプと、インバーターサインは消灯しますが、燃焼室が冷却するまで燃焼用・対流用送風機は、運転を継続します。
2. 約10分後に燃焼室が冷却され、燃焼用・対流用送風機が自動的に停止し、同時に設定温度表示が消灯します。



- 外出するときは、必ず消火してください。
- 長期間留守にするときは、必ず電源を切ってください。
- 消火操作後温風が出ている間は、絶対に電源プラグを抜かないでください。
もし抜かすと、のぞき窓ガスでくもったり、ストーブの表面温度が上昇します。

⚠ 注意

●高温部に注意

燃焼中や消火直後は、温風吹出口や給排気筒など高温部に手などふれないように注意してください。
やけどのおそれがあります。



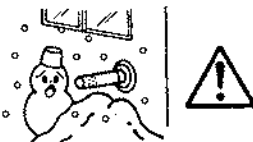
●分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理や改造は、危険です。



●給排気筒トップ閉そく注意

積雪の多い地方では、給排気筒トップが雪でふさがれないように注意してください。
排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。



●腰をかけたり、物をのせないで

腰をかけたり、やかんや花瓶などの物をのせないでください。
やけどしたり、ストーブが変形することがあります。
また、水が内部に入ると、感電、火災、故障の原因になります。



●電源コード、プラグ

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っばったりすると電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。



●変質灯油に注意

変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などを使用しないでください。
異常燃焼や故障のおそれがあります。

●灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。
誤って使用すると危険です。



14. アフターサービス

修理を依頼するときには

故障・修理については、お買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。

修理を依頼される前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、今一度「故障・異常の見分け方と処置方法」(22・23ページ)で点検していただき、なお異常のあるときは、保証書を提示のうえ、修理をご依頼ください。

無料修理期間経過後の修理

無料修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。
修理によって性能が維持できる場合は、有料修理致します。なお、メーカーは販売店からの注文により補修用性能部品を販売店に供給します。

石油ストーブの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後7年です。

- (1)この期間は、通商産業省の指導によるものです。
- (2)性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

15. 据付け

据付け場所の選定及び据付け要領

⚠ 注意

1. ストーブの据付けについては、火災予防条例など各種の規制があります。
販売店・据付業者とよく相談することが大切です。

⚠ 注意

2. 積雪の多い地方では、積雪時に給排気筒が雪でふさがれないような取付場所を選定してください。また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

3. 電源プラグは、必ず適正配線された単相100Vのコンセントに差込んでください。
4. 地震などによる転倒防止のため、付属の本体固定金具を使用し、壁面にしっかりと固定してください。
本体固定金具が使えない場所では、床固定金具(F-84：別売部品)を使用し、床に固定してください。

- ストーブは、壁または床に必ず固定してください。
- 転倒防止のため、固定できない場所では使用しないでください。

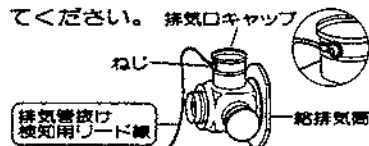
7. その他の装置

排気管抜け検知装置

排気管の接続部がはずれたときや、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線したときには、安全装置が作動し、エラー表示 **[E5]** を出し、消火します。排気管抜け検知装置が作動している場合は、エラー表示 **[E5]** がでて点火できません。

排気管抜け検知装置にたよらず、給排気管や延長管を月に1度は点検してください。

原因を調べ、処置後点火操作をしてください。排気ロキャップ



排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、はずれ・切れがないか確認してください。

再点火安全装置

消火直後、ストーブが冷却しないうちに再点火操作をしても、燃焼室の温度が一旦冷却してからでないと燃焼しないようになっています。

8. 日常の点検・手入れ

点検・手入れは、消火後ストーブが十分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

△注意

点検・手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

ストーブとストーブ周囲の点検

△注意

1. ストーブの周囲は、常に整理・清掃し、燃えやすいものを置かないでください。
2. ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。ストーブは、いつも清潔にご使用ください。
3. 釜台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。また給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。
4. 送油用ゴムホースは、ひび割れやふくれがないかシーズン初めに点検してください。異常のある場合は、交換してください。

●油漏れのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

タイマーの使用法

- 必ず時計動作コロンが点滅することを確認してください。点滅しない場合は、切換スイッチが「時計」になっていないか、またはおはようタイマーボタンが押されたためタイマー点火時刻を表示しています。
- 1分以内の停電であれば、再通電後も現在時刻を表示しますので時刻合せの必要はありません。それ以上の停電で、時刻表示部が00:00を表示したら時刻合せを行ってください。
- 1分以内の停電であれば、再通電後もタイマーセット時刻は記憶されています。セット時刻を変更するとき以外はタイマー時刻セットは不要です。

おはようタイマー

■ストーブ停止中からのタイマーセット方法

1. おはようタイマーボタンを押してください。
現在時刻表示がタイマーセット時刻に切り替わり時計動作コロンが点滅から消灯にかかります。

おはよう おやすみ



2. 運転スイッチを押してください。
おはようタイマーランプが点灯して、セット完了です。

1時間 ☐

2時間 ☐

必ずタイマーのセットを完了させてください。

運転スイッチを左に押しおやすみモードに切り替えます。

■ストーブ運転中からのタイマーセット方法

おはようタイマーボタンを押してください。

- 現在時刻表示がタイマーセット時刻表示に切り替わり時計動作コロンが点滅から消灯にかかります。
 - 電源ランプとインバーターサインが消灯し、消火動作に入ります。
 - おはようタイマーランプが点灯します。
- これでセット完了です。

1. 特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は一般的な注意)が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合はガソリン禁止)が描かれています。



⓪記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

警告

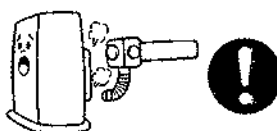
●ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。



●外れ危険

給排気筒(管、ホース)が正しく接続されているか点検してください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



試運転

1. 運転準備(詳しくは、7～9ページを参照してください)

- ①送油経路内の空気抜きをしてください。
- ②運転スイッチが〔停止〕になっているか確認してください。
運転スイッチを〔運転〕のまま電源プラグをコンセントに差し込むと、E1が表示されます。
この場合は、一旦運転スイッチを押しもどしてください。
- ③電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ④定油面リセットボタンを軽く押下げてください。
- ⑤ストーブの暖台の上や送油管の接続部に、油だまりや油漏れがないか確かめてください。

2. 運 転(詳しくは、10～13ページを参照してください)

- ①油タンクの送油バルブを開いてください。
- ②運転スイッチを押してください。電源ランプ・設定温度表示・インバーターサインが点灯し、5～6分後に対流用送風機がまわり温風が出ます。
初めてお使いになるときは、ストーブ内の送油管に灯油がみだされておりませんので炎が立消えることがあります。この場合は、一旦消火して、冷えるのを待ってからもう1度点火してください。
初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。
- ③運転スイッチを押しもどしてください。
電源ランプ・インバーターサインが消灯し約10分後に、燃焼用・対流用送風機が止まり、設定温度表示が消灯します。